

高等学校 第3学年 地歴公民科（地理）学習指導案（細案）

指導日時：令和元年10月28日（月）第3校時
指導学級：第3学年3・4組（男子6名，女子9名）
指導者：宮城県石巻高等学校 教諭 千島 真未

1 単元名 [地理探究] アフリカ （二宮書店「新編詳解地理B 改訂版」）

2 単元の目標

アフリカでみられる，地形や気候と歴史的背景を関連づけて考察することにより，固定概念に囚われずに，客観的な視点でアフリカの特徴をとらえ，アフリカの文化やアフリカが抱える課題を知り，今後どのように変化していくかを考えさせる。体験活動や話し合い活動を取り入れることで，多様な文化や考えを受容し，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 指導に当たって

(1) 単元について

本単元では，アフリカについて地形・気候・文化・歴史・農業・鉱工業などあらゆる視点から学ぶ。多くの人が持つアフリカへのイメージは「テロや内戦が続く危険地域」や「貧しく飢餓にあえぐ貧困地域」というものである。日本とアフリカの国々の1人あたりのGNI（国民総生産）を比べてみると，アフリカの中で最も高いセーシェル（15,410ドル）は日本の約半分，最も低いソマリア（88ドル）は，431分の1となっており，経済的に豊かであるとは言い難い。さらに，最貧国の基準とされる一人あたりのGNIが3年間平均で，年間750ドル以下に該当する国が54カ国中20カ国である。一方で，各国の成長も進んでおり，私たちのイメージするアフリカと実際のアフリカとのズレも生じてきている。なんとなくもっている「貧しい」や「かわいそう」というイメージではなく，地形や気候，歴史などを通して，客観的に捉える力や今後のアフリカの展望や，そのために日本ができることを考える。また，「貧しい」や「かわいそう」という印象は，経済的な指標から見た点に過ぎず，あらゆる角度からアフリカをとらえる機会とする。

(2) 生徒の実態

2年生から引き続き地理を選択した男子6名，女子9名の生徒であり，社会と教科学習の繋がりを考え，地理を楽しみながら取り組んでいる印象である。授業に関するアンケートでは，「世界のことを知るのが楽しい」や「現実世界と学んだ知識が結びつくため役に立つ」という生徒がいる一方で，今後必要になるのは「自ら考える力」と答える生徒が多く，知識だけでなく，それを活用する力を身につけていきたいと考えている生徒が多いということがわかった。また，授業の形態も教員がただ板書をし，話す授業を好まない生徒がほとんどで，グループワークやディベートを通して，自ら考え，その考えを共有するような授業を望んでいる。2学年では4単位，3学年では5単位設定されている科目であり，生徒同士も打ち解けており，気後れせずに自らの意見や考えを発表できる生徒が多い。

(3) 指導について

2学年では系統地理について一通り学習しており，世界的な視点での地形や気候については学習済みである。そのため，系統地理的に学習してきた内容をアフリカに焦点を絞り，まとめていく。地形や気候と結びつけて教えることで，知識が連鎖することを伝える。また，既習事項も多いため，常に生徒へ質問を投げかけ，生徒が発言しやすい環境作りを心掛けるとともに，知識の習得だけを目的とするのではなく，得た知識によって，生徒自身の思考が深まるように働きかけていきたい。すべてを丁寧に教えるのではなく，生徒が課題や疑問を見つけて，その課題や疑問に対する解決策を生徒自身が考える力や，自分の考えを伝える時間を設定することで世の中には答えのない問題が多くあり，それに対して自分の意見を持つことの重要性や人はそれぞれ違う考え方を持っていることを理解し，受容する力を身につける時間としたい。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
アフリカ地域に対する関心と課題意識を高め，それらを地誌的に追求する学習に取り組み，アフリカ地域の課題や今後の展望について主体的に考え，課題解決に向けて意欲的に追求しようとしている。	気候や地形を読み取り，アフリカ地域の農牧業や鉱工業の適切な利用を考え，まとめるとともに，アフリカ地域を固定概念に囚われず，客観的な視点でとらえ，適切に表現している。	アフリカの地形や気候の影響を受けた産業や生活文化，民族・宗教に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり，図表にまとめたりしている。	アフリカ地域の気候や地形の分布，歴史的な背景や地域の特徴からみられる生活文化や地球的課題を考察する方法を理解するとともに，その知識を身につけている。

5 単元の指導と評価の計画（全7時間）

	学習内容	学習活動における主な具体的評価規準	評価方法
第1時	1 広大なアフリカと人々 2 歴史的背景	・アフリカ大陸にあるサハラ砂漠という自然的境界が存在し、北と南で文化の違いが見られることを理解している。(知識・理解) ・アフリカの歴史的背景を踏まえて、現在のアフリカの状況と結びつけて考えることができる。(思考・判断・表現)	授業プリント 観察
第2時	3 地形と気候	・地図から地形を読み取り、原油や石炭など地下資源の産出する地域を推測することができる。(技能) ・赤道を挟んで対称に気候帯が分布していることを読み取り、砂漠の形成要因を理解している。(知識・理解)	授業プリント 観察
第3時	4 農牧業	・アフリカ地域で行われている伝統的な農業(焼畑・遊牧・オアシス農業)について、気候と関連づけて考えることができる。(思考・判断・表現) ・プランテーション農業による問題点や児童労働について知り、自分たちができるアクションプランを示すことができる。(関心・意欲・態度)	授業プリント ワークシート 観察
第4時	5 鉱工業と貿易	・アフリカ地域での資源分布の違いによる経済格差を理解し、資源に恵まれている地域が抱えている課題や今後の成長について、自ら考えることができる。(思考・判断・表現) ・産出する資源を原因とする紛争について、私たちが普段使用している電化製品の原材料も関わっていることを知り、アフリカ地域の出来事が他人事ではないという意識をもつ。(関心・意欲・態度)	授業プリント 観察
第5時	6 多発する紛争	・紛争の原因を知り、その背景には歴史的な要因や、現在の産業構造が関係しているということを理解する。(知識・理解) ・インターネットの普及とともにアフリカ地域の変化を知り、今後の展望を推測し、表現することができる。(思考・判断・表現)	授業プリント 観察
第6時	アフリカの人口増加と食料自給	・アフリカの人口について、どのように変化してきたか、今後どのように変化するかグラフから読み取ることができる。(知識・理解) ・人口増加と食料生産について比較し、どのような問題が発生するか考えることができる。(思考・判断・表現)	授業プリント 観察
第7時 (本時)	単元のまとめ 日本とタンザニアのちがいを考える	・課題に取り組み、自分の意見を伝えることができる。(思考・判断・表現) ・他人の意見を聞き、自分の考えとのちがいを受け入れながら、答えを導きだそうと取り組むことができる。(関心・意欲・態度)	ワークシート 発表 観察

6 本時の指導

(1) 題材名 「日本とタンザニアのちがいを考えながらアフリカ地域をまとめる」

(2) 本時のねらい

- ① タンザニアと日本のちがいを考え、経済的指標だけではなく、多方面から物事をとらえる視野をもつ。
- ② 答えのない問題について考えることで、自分と他人の見方・考え方の多様性に気づく時間とする。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿
思考・判断・表現	話し合いの中で、自分の意見を伝えることができる。	自らの意見を伝えるとともに、他人の意見を聞き入れ、活発な言語活動を行っている。
関心・意欲・態度	他の意見を聞き、自分の考えとのちがいを受け入れることができる。	答えのない問題に対して、自分の意見と他人の意見を交えながら、自ら課題を見つけ、答えを導きだそうとする態度がみられる。

(4) 学習指導上の工夫

- ・ 授業で取り扱った内容をテーマにすることで、授業の振り返りを行う。
- ・ 答えのない問題についてグループで話合うことで、様々な見方・考え方を知り、物事を多角的に捉える。

(5) 準備物

自作の教材、ホワイトボード

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問(●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	1 本時の学習課題を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> タンザニアと日本のちがいを考え、多様な見方・考え方に気づこう！ </div>	一斉	・今回取り組むワークは答えのない問題であることを伝え、自分がどう感じたのかを素直に答えるように伝える。	
展開 (20分)	2 アイスブレイク (5分) 「通学時間が長い順に並ぶ」 着席した席により、5つのグループをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 日本とタンザニアのちがいのちがいを考えよう。 </div> 3 各グループにちがいのちがいカードを配布し、各班であってよいちがいかあってはいけないちがいかまた、どちらともいえないちがいを話合う。(15分) 書記は、ワークシートに話し合いの内容をまとめる。	一斉 グループ	・通学距離が短い方から、「リーダー」「書記」「発表者」の役割をすることを伝える。 リーダー：話し合いのまとめ役 書記：グループでの話し合いをワークシートにまとめる 発表者：自分だけの意見ではなく、グループ全体の意見を発表する。 ・「なんとなく」や「あってはいけないから」など抽象的な理由ではなく、明確な理由をつけてグループの答えを考えるように指示をする。	グループ内で自らの意見を伝えることができるか 【思考・判断・表現】 他の意見を聞き、自分の考えとのちがいを受け入れることができるか 【関心・意欲・態度】
展開 (20分)	4 一番盛り上がったカードをあげ、どのような話し合いがなされたのか、グループの意見をまとめる。(5分) リーダーがとりまとめ、書記がホワイトボードに記入する。 5 各グループで盛り上がったカードをその理由を発表する(10分) 発表者は、その場に立ち発表を行う。	グループ 一斉	・一番盛り上がったカードは、あってもよいちがいで、あってはいけないちがいで、どちらともいえないちがいで構わないことを伝える。 ・ホワイトボードを配布し、一番盛り上がった内容の番号と、その理由を簡単に記入する。 ・自分のグループとの考え方のちがいをワークシートに記入する	グループの意見を伝えることができるか 【思考・判断・表現】 他の意見を聞き、自分の考えとのちがいを受け入れることができるか 【関心・意欲・態度】
まとめ (10分)	6 振り返りシートに感想を記入	一斉	・グループワーク、発表を通して感じたこと、気づいたことを記入。	

(7) 板書計画

本時で板書は行わない。

(8) 学習プリント・ワークシート(別添)